

令和5年度第2回伊勢原市社会福祉審議会 会議録

〔事務局〕 保健福祉部福祉総務課

〔開催日時〕 令和6年2月19日（月曜日）午後6時00分～7時30分

〔開催場所〕 伊勢原市役所 2C・2D会議室

〔出席者〕

（委員） 吉川委員、竹村委員、御領委員、橋本委員、重松委員、石井委員、秋澤委員、橋本委員、池田委員、長谷川委員、平田委員、中村委員、佐伯委員

（事務局） 保健福祉部：土方部長、高橋担当部長  
福祉総務課：小形課長、加納主幹、鈴木係長  
障がい福祉課：平井課長、山田係長  
介護高齢課：石井参事兼課長、栗田担当課長  
健康づくり課：高橋課長、安部主査  
保険年金課：鎮目参事兼課長

〔公開可否〕 公開

〔傍聴者数〕 0人

《審議の経過》

1 あいさつ

2 協議事項

（1）重層的支援体制整備について【資料1】

3 報告事項

（1）第7期障がい者計画・障がい福祉計画及び第3期障がい児福祉計画の策定について【資料2・資料3】

（2）第2期自殺対策計画の策定について【資料2・資料4】

（3）第9期伊勢原市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画の策定について【資料2・資料5】

（4）健康いせはら21（第4期）計画の策定について【資料2・資料6】

（5）国民健康保険第3期データヘルス計画・第4期特定健康診査等実施計画の策定について【資料2・資料7】

4 その他

※ 委員からの主な意見・質疑応答は別紙のとおり

## 2 協議事項

## (1) 重層的支援体制整備について【資料1】

## 【質疑応答】

質問	回答
階層別会議体については、それぞれどれくらいの人数規模を想定しているのか。	具体的な人数は検討中だが、要保護児童対策連絡協議会に準じて様々な団体を構成員にしたいと考えている。
包括的な相談窓口というのはどのようなものなのか。また、会議体との関係は。	窓口については、いったん相談を受け止めてそれぞれの担当に振り分けていくというイメージである。会議体については、情報共有の場をイメージしている。会議体の中で、地域での運用の仕方を検討してもいいのではないかと考えている。

## 【意見】

・相談支援については、人材不足等の問題もあり一事業所だけで抱えきれなくなってきたおり、重層的支援体制整備の必要性を感じている。
・不登校など、課題を抱えている家庭へのアクセスがなかなか出来ない状況である。
・8050問題と言われるように、子どもだけでなく親も問題も抱えているケースがあり、親の方を介護につなぐなど、しっかりとした道筋ができると思う。相談については人材も不足しており、相談員の確保が課題である。また、相談をしようとする家庭もあり、そうした家庭も地域の中で気づいてあげられて、声をかけられるような体制ができるとよいと思う。
・各課で対応している相談のつなぎ役のような役割は非常に重要であり、重層的支援体制整備事業には期待したいと思う。
・個々の事例を支援者が共有して、それぞれ協力していくのが重層的支援事業なのかと思う。コーディネーター役の育成も必要である。
・地域の方と情報交換しながらやっていくことが大切だと思う。
・民間事業者と連携しながら地域づくりにつなげている事例もあり、保健医療福祉分野の発想ではなかったようなアイデアが出てくることもある。
・短期と中長期に分けて課題整理や事業展開ができると、計画がスムーズに流れると思う。
・警察も一つの窓口になっており、包括的支援体制の整備には関わってくると思われるので、ご検討いただきたい。

### 3 報告事項

- (1) 第7期障がい者計画・障がい福祉計画及び第3期障がい児福祉計画の策定について【資料2・資料3】
- (2) 第2期自殺対策計画の策定について【資料2・資料4】
- (3) 第9期伊勢原市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画の策定について【資料2・資料5】
- (4) 健康いせはら21（第4期）計画の策定について【資料2・資料6】
- (5) 国民健康保険第3期データヘルス計画・第4期特定健康診査等実施計画の策定について【資料2・資料7】

※ 報告事項については、質疑・意見等は特になし